



◀ 白神特産の青果物をPRしたトップセールス

JAと行政が協力し大消費地へPR

JAあきた白神

JAあきた白神の特産品『白神ねぎ』と『白神みょうが』を大消費地の関東圏へ売り込もうと、佐藤組合長と齊藤能代市長、佐々木藤里町町長が8月24日、25日の2日間、横浜市の中央卸売市場などを訪問しトップセールスを行いました。

トップセールスには、佐藤組合長をはじめ各市町の首長、JA職員やミスフレッシュら11人が参加し、白神ねぎのはんてんを着て午前6時からPR活動を行い、卸業者に販売促進の協力を呼び掛けました。試食は、そうめん『白神ねぎ』と『白神みょうが』を薬味に使い提供し、用意した300食はあっという間に無くなる人気ぶりでした。トップセールスを終え、佐藤組合長は「今後、白神青果物を有利販売するためにより一層努力していく。生産者をはじめ各関係機関と連携し産地づくりに励んでいきたい」と話しました。



▲用意したそうめんはあっという間になくなりました

新たな米政策の確立に向け総力をあげて取り組む

営農企画課

平成30年以降の米政策の転換を迎えるにあたって、JA秋田中央会と秋田県農協農政対策本部は8月17日、秋田市で「新たな米政策確立に向けた秋田県生産者大会」を開きました。全県JAの役職員や農家ら1,000人が参加し、当JAからは約50人が参加しました。

大会では、10aあたり7,500円の米の直接支払交付金に代わる施策の創設をはじめ、需給調整に参加するメリット措置の維持が必要との認識を確認し、県選出国會議員らに要請しました。その後の決意表明では、JAあきた女性組織協議会の佐々木博子会長が「米の消費拡大と仲間の輪を広げる運動を積極展開する」と述べました。



▲ガンバロー三唱をする参加者



▲多くの来場者で賑わった展示会

収穫期を目前に農業機械展示会を開催

農業機械課

豊作の秋を目前に控え、JAあきた白神カントリーエレベーターで、8月22日と23日の2日間にわたり、農業機械展示会が開催されました。

会場には、メーカー自慢のコンバインやトラクター、草刈り機など様々な農業機械が並び、買い替えや備品の購入を目当てに多くの農家が来場しました。農機課職員やメーカー担当者から使用方法などを聞くなどし、目当ての農機具を購入していきました。また、農作業事故予防に向け作業安全講習会も開催され、コンバインの事故様態と安全対策などについて担当者から研修を受け、参加者は出来秋を控え作業点検の重要性や内容を確認し合いました。

